

三重看護学誌第 20 巻の発刊に寄せて

三重大学大学院 医学系研究科長・医学部長 片山直之

第 20 巻の三重看護学誌 (Mie Nursing Journal) 発刊おめでとうございます。三重大学医学部看護学科および医学系研究科看護学専攻のこれまでの沿革と、本誌が年刊で第 19 巻まで発刊されていることから想像してみますと、初刊は、平成 9 年に三重大学医学部が現在の看護学科と医学科の 2 学科制になったときとほぼ同じ頃ではないでしょうか。すなわち、本誌は三重大学医学部の歴史を語るもののひとつとして極めて貴重であると考えます。

尤もなことではありますが、学術活動で大切なことは、研究成果をまとめて学会や研究会などで発表することではなく、それらを刊行物に論文として掲載しておくことです。これを行うことにより、研究者の研究成果が、他の研究者を刺激して、新たな研究テーマやその成果へと繋がり、それらがまた別の研究者に影響を与えます。さらに、それらの研究者が、元の研究者に様々な形で還元されることになり、元の研究者のその後の研究の展開にも大きく関わってきます。このような連鎖反応で、科学研究は今まで支えられてきましたし、これからも進展していくと考えられます。すなわち、研究成果はそれを生み出した研究者だけに帰属するのではなく、他の研究者と共有してこそ、その価値はより一層高くなります。言い換えれば、研究成果を活字で残すことは、研究者の使命、義務であるといつてよいでしょう。

昨年の 4 月には、三重大学大学院医学系研究科に看護学専攻修士課程に加えて看護学専攻博士課程が開設されました。今後、これらの課程の修了者はいずれの課程であっても、独創的で学術的に価値の高い論文を作成しなければなりません。本誌をこれらの論文の研究内容の掲載にも活用することができます。そのことにより、本誌は看護学専攻博士前期課程（修士課程）および看護学専攻博士後期課程の研究の伝統と歴史を形として残していくことになります。さらには、論文の本誌への投稿が、三重大学医学部看護学科や三重大学大学院医学系研究科看護学専攻に所属されている方々だけでなく、外部の学生、診療従事者、研究者からもなされると、本誌の役割はさらに重要なものとなっていくでしょう。

本誌のさらなる発展を祈念致しております。

平成 30 年 3 月